甲子園浜の鳥の生態

中学 2 年　O.R.

1. はじめに

私は 1 月 19 日と 3 月 28 日に甲子園浜へ鳥を観察に行った。甲子園浜は、阪神甲子園球場から海の方へ下って行ったところにある浜のことである。1971 年に地域住民が起こした「甲子園浜埋立公害訴訟」によって自然のままの砂浜が残され、大阪湾とは思えないほどの多様な生物相を誇る。

2. 1 月 19 日の記録

1 月 19 日 11 時頃。甲子園浜を西の方から順に歩いていった。西側はヒドリガモ・マガモ・オオバンが主であった。ちょうどその時に持って来ていた「日本の鳥 300」という本にはオオバンの生息地は「平地から低地、湖沼、河川など」と書かれてあったが、最近は港にもよくいるようだ。また、海面に浮かぶ岩にはカワウが止まっていた。カワウは名前に“カワ”とつくがよく海にいるし、ウミウもよく湖沼や河川にいる。カワウは頬が黄褐色なのでウミウと見分けがつく。東側の浜は生物保護区らしく立ち入り禁止だったため浜には入らず遊歩道から鳥を観察した。スズガモ・キンクロハジロなどが混ざってかなり大きな群れを作っていた。奥のブイの辺りを数匹のカンムリカイツブリが漂っていた。セグロカモメが食べていた 30cm 超のチヌと思わしき魚をミサゴが横取りする光景が見られた。甲子園浜の最も東、鳴尾川河口には、ホシハジロの 1000 羽超えの群れがいたが、帆船が通ると全て飛び立ってしまった。少ししてまたホシハジロが戻ってきた。そこに帆のない同じぐらいのサイズの船がよこぎったがホシハジロは飛び立たなかった。帆があると逃げるのだろうか。

3. 3 月 28 日の記録

3 月 28 日 11 時頃。甲子園浜橋から西の方から歩いていった。橋の真下には前回同様オオバンがいた。その日はウィンドサーファーが多く、全体的に鳥は少なかった。また、前回よりは潮が引いており、海上に姿を現した岩礁に生えたアオサと思しき緑藻をオオバンが啄んでいた。また、1 月には見られなかったヒドリガモのつがいも見られた。砂浜には鳥の死体が落ちていた。水かきの形から潜

←鳥の死体。洗って地面の上に広げられている。撮影:筆者

水ガモということはわかったがそれ以上のことはわからなかった。

初列風切が薄茶色であること、次列風切に翼鏡が見られないこと、周りにヒドリガモが沢山いることからヒドリガモ雌ではないかと推測されるが、尤も頭が外れているので確信はできない。そのまま東に歩いていったが鳥の群れは見られなかった。奥のブイの辺りにはカンムリカイツブリは見られなかったが、前回よりはセグロカモメが多く、採食している個体もおり、セグロカモメらしき鳴き声も聴こえた。ミサゴが両足を海に突っ込んで水面下の魚と格闘している光景も見られた。鳴尾川河口にはホシハジロがおらず、ただ岩礁に 40 匹ほどカワウがとまっていた。

4. 甲子園浜にいた鳥

ヒドリガモ *Anas penelope*

←ヒドリガモつがい　撮影:筆者

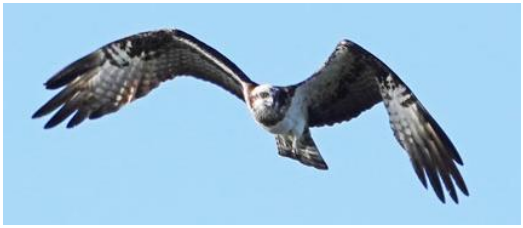
甲子園浜でよく見られた鳥。日本全国で見られる冬鳥。雄の頭部は赤褐色だが、嘴から頭頂部にかけて黄色い筋が走る。体色は基本グレーだが、初列風切は黒い。雌の体色は他のカモ類同様薄茶色である。海苔の養殖場では海苔を食べるため農業害鳥扱いされている。

オオバン *Fulica atra*

←オオバン　日本野鳥の会 HP より転載

同じく甲子園浜でよく見られた鳥。冬鳥。漂うような泳ぎ方をする。額とつながっている白い嘴と真っ黒な体色が特徴的。よく潜水するので観察するときは目を放さないようにしなければならない。足には弁足がある。弁足とは足の指から生える鰭のことで指の間に張られる膜状の水掻きのことではない。水生植物をよく食べている。たまに水生動物も食べるらしい。

ミサゴ *Pandion haliaetus*



←ミサゴ 日本野鳥の会 HP より転載

魚食性の鷹。阪神高速道路の近くを飛んでいた。全長約 6cm 翼開長約 170cm と鷹の中でも大きい部類。背中と翼の表は黒く、腹部と翼の裏が白いというタカ類に多い配色をしている。生息地で見分けがつくが、その他の特徴は眼窩から首

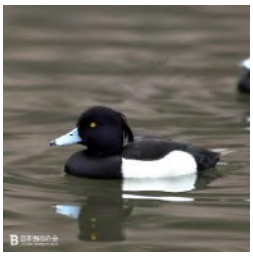
まで走る太い黒褐色の線、魚を捕えるため反転した第 1 趾(猛禽類ではミサゴだけ)などが挙げられる。上空が開けていれば河川にでも湖沼にでも海岸にでもいる。

ホシハジロ *Aythya ferina*

←ホシハジロつがい　日本野鳥の会 HP より転載

鳴尾川河口に 1000 羽超の群れを成していた鳥。雄は赤い頭と赤い目が特徴的。日本全国で見られる冬鳥である。首、風切羽の先端が黒く、胴体は白い。

キンクロハジロ *Aythya fuligula*



←キンクロハジロ雄　日本野鳥の会 HP より転載

スズガモらと群れを作っていたカモ。冬鳥。よく潜水しては貝を食する。風切羽は白く、嘴は灰青色をしているが全身は黒い。雌は他の巣に托卵することもある。後頭部に冠羽がある。

スズガモ *Aythya marila*

←スズガモ雄　日本野鳥の会 HP より転載

全国で見られる冬鳥。他のカモに比べて湾や海岸によくいる。頭部から首にかけて広がる緑色の光沢をもつ羽毛と背中の漣のような模様の羽がよく目立つ。貝の養殖場を荒らす害鳥としても知られている。遠浅の海では数万羽の群れを作ることもある。

カンムリカイツブリ *Podiceps cristatus*

←カンムリカイツブリ冬羽　日本野鳥の会オホーツク支部より転載

大型のカイツブリ。基本冬鳥だが、下北半島の湖沼や琵琶湖で繁殖する個体も見られる。二又に分かれた冠羽が特徴的。写真は季節に合わせて冬羽のものを転載したが、越冬地では 3 月頃から夏羽を見ることができるらしい。夏羽のカンムリカイツブリは頬からオレンジ色の飾り羽が生え、前から見るとたてがみのように見える。体色は全体的に茶色っぽくなる。水生動物を食べる。水草をくわえていることもあるが大概巣作りか求愛目的である。

セグロカモメ *Larus argentatus*

←セグロカモメ冬羽　サイト「猪名川流域の鳥」より転載

写真は冬羽。首の後ろに薄灰色の斑点ができる。夏羽になると斑点は消える。翼は濃灰色。下嘴に赤い模様があり、脚はピンク色をしているため他のカモメ類と見分けられる。

カワウ *Phalacrocorax carbo*

←カワウ　サイト「猪名川流域の鳥」より転載

ウミウとの見分け方は前述の通り。魚しか食べない。留鳥である。繁殖期には嘴が黒ずむ。

5. おわりに

1 月は見られなかったつがいが 3 月には見られ、鳥たちの繁殖期を迎えていることが分かる。皆さんがこの記事を見るであろう 5 月にはまた見られる鳥も変わってくるだろう。甲子園浜は周辺都市のからのアクセスがしやすく、海の生物相の多様さもこの辺りではトップクラスだ。1 度足を運んでみてはいかがだろうか。

6. 参考文献、HP

日本の鳥 300　著：叶内拓哉
NPO 法人　海浜の自然環境を守る会
http://www.npo-koshienhama.com/
カモ類の翼鏡: 自然の探求日誌
http://birdfeathers.seesaa.net/article/408642566.html
日本野鳥の会(BIRD FAN)　http://www.wbsj.org/
猪名川流域の鳥
http://www.hokusetsu-ikimono.com/iki-h/inagawa-tori/index.htm